



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

TECH未来通信

2020.OCT
VOL.032



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来INNOVATIVE CONTEST 2020を終えて

審査員の方々からの総評

TECH-mirai INNOVATIVE CONTEST 2020(活用力コンテスト7)が終了しました。

今回は30以上もの作品が提出されました。たくさんのご参加ありがとうございました。今回の通信は、審査員の方々からの総評(一部)を掲載させていただきます。

今年も想いのこもった作品がたくさんありました。皆さんの柔らかい頭を使って、TECH未来で具体的な形にできることは素晴らしいと思いました。(広島大学大学院 准教授 谷田親彦先生)

生活や社会の中から見いだした問題を解決するために、どのような製品を開発すべきかを検討し、それを実現するために、動力源の力やスピード、向きを適切に変換している作品ばかりでした。加えて、使われる場面を踏まえて本体の形状や構造、スイッチを工夫するなど、使用者のことを考えて開発していることにも感心させられました。(文部科学省 情報教育教科調査官 上野耕史さま)

新しい機構が、今までにない解決をもたらしてくれました。また、新しい分野にもアイデアが広がりました。TECH未来活用力コンテストは、とても少ないパーツと機構をもとにしたコンテストです。できないこともたくさんあるのですが、みなさんのアイデアがそれをとて豊富なものに変えて見せてくれました。今後、コンピューターやプログラミングと出会うことで、さらに未来が広がります。みなさんの

「こうしたい!」を様々な「学び」と出会わせることで、実際の未来も大きく変わっていくと思います。(中国学園大学 准教授 柏原寛先生)

どの作品も学生ならではの生活の問題点を解決しようという努力や、世の中を良くしようという気持ちが込められている作品ばかりで見ていて嬉しい気持ちになりました。コロナ渦という今の状況に応じた作品も見られ、自分たちが持っている力を瞬時に活用しようと考えられる力に将来への希望を感じます。(㈱おもちゃ王国 高谷昌宏さま)

技術の授業を振り返ると、昔は試行錯誤しながらラジオを作ったり、ラックを作ったり、いろいろ工夫することが多かった時代から、授業のスリム化、スムーズ化により、試行錯誤しながら実習活動を行う場面が少なくなりつつあります。このような中で、今年度の活用力コンテストの作品は、Tech未来の基本的な部品を活用して、さらに自分で紙や段ボール、いろいろな材料を付け加えて、自分なりの考え方や捉え方を引き出すための工夫をしている作品が多くみられました。このようなハンズオンによる思考錯誤のプロセスは、新しい時代に求められている重要な活動であり、どの作品もそのような活動をたくさんしている様子が見られました。家に市販のちゃんとしたものを持ち帰らなくても、きっと今回応募してくれた生徒の皆さんは技術を学ぶ大事なものを身につけたのではないかと考えています。来年は、新しい学習指導要領による本実施が始まる年であり、是非、このような活用力コンテストが技術の授業を通して盛り上がることを願っています。(東京学芸大学大学院 教授 大谷忠先生)

編集後記

作品は、活用力コンテストのページからぜひご覧ください!